



## ネクタイへの支出

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -



10月は衣替えの季節です。この衣替えに伴いネクタイの着用も増えてきます。これまでのクールビズのラフな服装に慣れている身体には、ネクタイは窮屈に感じるかもしれませんが、一方で、気分を一新させてくれるアイテムではないでしょうか。また、10月1日は、「ネクタイの日」でもあります。この「ネクタイの日」は、1884年（明治17年）10月に帽子商小山梅吉の手により国産第一号の蝶ネクタイが製造されたことにちなんでできた記念日とのことです。そこで、今月はネクタイへの支出について、家計調査の結果から見てみましょう。

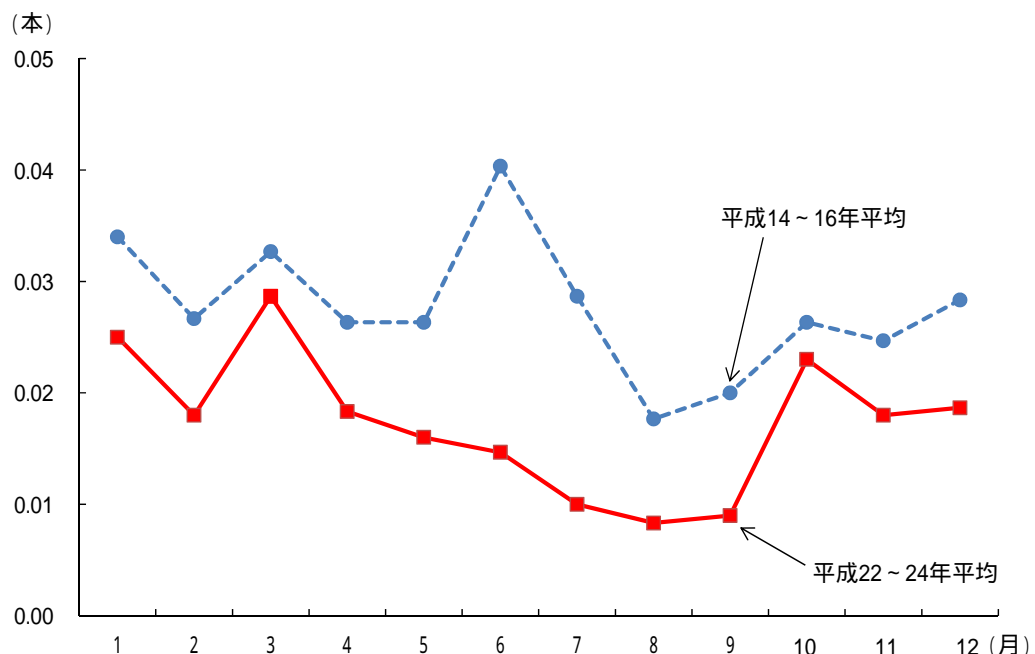
1971年（昭和46年）に日本ネクタイ組合連合会によって制定。

### 衣替えの10月に増加するネクタイの購入数

1世帯当たりのネクタイへの月別購入数を、クールビズが始まった平成17年以前の14～16年平均と直近の22～24年平均で見ると、クールビズが始まる以前は父の日の贈り物需要などもあり、年間で6月が最も多くなっていました。

しかし、クールビズがすっかり定着した最近では6月にピークは見られなくなり、年間では入社式や新年度を控えた3月の購入数が最も多く、また、衣替えのある10月にも大きく増えていることがわかります（図1）。

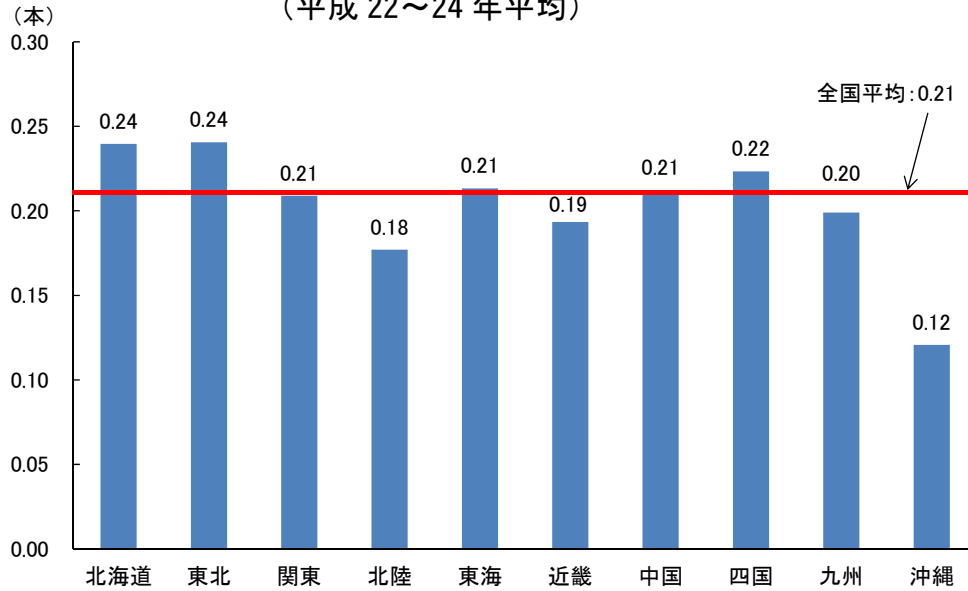
図1 ネクタイの月別購入数



## 沖縄地方では少ないネクタイの購入数

ネクタイの1世帯当たりの年間購入数を地方別に見ると、沖縄地方を除いて大きな差は見られません。沖縄地方では、ネクタイを必要としない「かりゆし」などが良く着られていることから、他の地方に比べ購入数が少なくなっているとみられます（図2）。

図2 ネクタイの地方別年間購入数  
(平成22~24年平均)



## ネクタイの支出金額は20年前の4分の1以下まで減少

ネクタイの1世帯当たりの年間支出金額の推移を見ると、バブル経済が終わった後の平成4年は2,757円でしたが、24年は616円と、20年前の4分の1以下まで減少しています（図3）。

図3 ネクタイの年間支出金額、購入数及び消費者物価指数の推移

